

東亜同文書院記念基金会ニュース

第24号

2022年4月～2023年3月

第29回 東亜同文書院記念基金会 授賞式

令和5年3月7日



Contents



第29回 東亜同文書院記念基金会授賞式 -02

東亜同文書院記念基金特別奨励賞・栄誉賞授与 -15

本間先生欽慕の会・荒尾東方斎先生墓参・根津山洲先生墓参 -16

東亜同文書院大学記念センター活動レポート -18

発行／愛知大学東亜同文書院大学記念センター

第29回東亜同文書院記念基金会授賞式

第29回東亜同文書院記念基金会授賞式が2023年3月7日、霞山会館にて催されました。

この顕彰事業は、東亜同文書院記念基金会によるものであり、その目的は、東亜同文書院およびその経営母体であった東亜同文会にかかわる研究や調査成果、および啓蒙的活動のうち、顕著な実績を認められた個人、団体や組織を顕彰するものです。東亜同文書院記念基金会を構成する滬友会（書院同窓会。2007年解散）、霞山会、愛知大学東亜同文書院大学記念センターからの推薦により同理事会において選出しており、1993年の第1回表彰以来、本年度で第29回目となります。

これまで、書院生の大旅行に関する研究成果や東亜同文会の資料に基づく研究、東亜同文書院や東亜同文会の出版物のデータベース化事業、東亜同文書院生や卒業生による日中交流に関するメディア報道、その他日中交流の活発な活動などの成果に対して顕彰してまいりました。

第29回となる今回は、記念賞として嵯峨隆氏が、功労賞として越知専氏が選ばれました。

〔記念賞受賞者〕

嵯峨 隆 氏

長年にわたり中国政治思想史の研究で多くの成果を挙げてこられました。

近年において日本におけるアジア主義研究にも関心を広げ、その文脈で東亜同文会初代会長をつとめた近衛篤磨公の思想と行動の再評価に向けて研究をすすめ、その成果を上梓されました。2022年12月末には単著『東亜同文会初代会長 近衛篤磨評伝―その四十年の生涯―』が刊行されました。

〔功労賞受賞者〕

越知 専 氏

長年にわたり東亜同文書院大学記念センターの運営発展ならびに本間喜一名誉学長の顕彰に大きく貢献されてこられました。

同センターの展示施設開設とともに運営委員として参画され、多くの記録写真や講義ノートを提供され、展示方式などの充実化に努められました。本間先生への尊敬の念を熱く抱き、本間イズムに強く共感し、本間学長展示室の充実化、何冊もの顕彰本の刊行、本間先生胸像の寄贈、東北地方からの愛知大学入学生への奨学金給付の実現、これらに伴う多額の寄付金の提供など、東亜同文書院大学記念センターへの支援に惜しみなく力を注いで下さいました。

〔授賞式挨拶〕

川井 伸一 氏

（東亜同文書院記念基金会会長・

愛知大学学長）

皆様、おはようございます。基金会の会長を務めております愛知大学学長の川井でございます。今日は皆様にはお忙しい中、この東亜同文書院記念基金会の授与式にご参集いただき、心より御礼を申し上げたいと思います。今回は先ほどの授賞式のとおり、お二人の方に授与することになりました。

まず、記念賞を受賞された嵯峨さんは、従来から中国近代における政治思想史のご研究で多くの業績を出され有名な研究者でございます。基金会との関連で申し上げれば、近年、アジア主義の思想研究を続けてこられました。その成果も色々出されております。その一環としてアジア主義者の代表的な人物の1人であります近衛篤磨公の思想と行動について深く研究されてきました。ご案内の通り、昨年末に霞山会アカデミー新書の1冊として近衛篤磨の評伝を公刊されました。遅ればせながら私も最近読みまして色々勉強させていただきました。近衛公について色



々な印象を持ちました。彼は40年の今で言えばかなり短い人生の中できわめてさまざまな活動を積極的にされた人であったというのが最初の印象です。主に政治活動、教育活動ですが、その一環として東亜同文会や東亜同文書院の設立があります。その他、文化活動を色々されているということを学びました。それから、自分の出自が元貴族の最高のランクのご出身で、その後、明治時代には華族の公爵になりましたけれども、そういう立場を彼は十分に自覚した上で社会的な責務、義務を果たすべきであるという信念があったことです。他方で多くの華族の実情については、きわめて批判的であったことも知りました。彼は東亜同文会及び東亜同文書院の創立に大変貢献された人物であるということ、は、前々から知っておりましたが、嵯峨さんのご著書によって彼の思想と行動を全体的に知ることができたことは、私として大いに

勉強になりました。短い生涯を、社会的な活動という点では欧州留学から帰国してから実質わずか13年ぐらいの短い時間でありましたが、そういう中で精一杯、人生を駆け抜けたという印象を強く持ちました。このように嵯峨さんのご著作は大変印象深く、基金会にとっても大きな成果であると思います。

それから、功労賞を受賞された越知さんでございます。越知さんは東亜同文書院大学記念センターの、かつて運営委員をお勤めになりました。その関係から、これまでの愛知大学の歴史的な写真、本間学長等の写真を撮影保存し、それから、自ら学生の時代に丁寧にとられた講義ノートが多数ございます。そういう写真やノート等をセンターのほうに寄贈されたというのを聞いております。またセンターの展示等の改善のためにも色々なご提案をされました。申し上げなければいけないのは、越知さんは東亜同文書院記念センターの発展のために度々ご寄付をされたというところで、大変ありがたく思っております。越知さんを語る際に欠かせないのは、本間先生に対する深い愛着と言いますか、自ら本間イズムと称して、本間先生の人となりに関する本を何冊も刊行されております。後で紹介があるかと思いますが、本間先生の胸像もそうです。胸像をお作りになって、それを大学および、本間先生の出身地である山形県川西町のほうに寄贈されています。越知さんには本間先生に対する深い思い入れがございま

して、それを大学としても出来るだけ受け止めていきたいと思つていらっしゃるでございします。以上のように、越知さんは愛知大学の東亜同文書院記念センターの活動の発展、および本間先生の顕彰に関して大きな貢献をされたと考えております。以上、簡単ではございますが、お二人の受賞に対して改めて心よりお祝いを申し上げて私の挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございます。

「記念賞推薦の辞」

阿部 純一 氏(霞山会理事長)

第29回、令和4年度の東亜同文書院記念基金会の授賞者として嵯峨隆先生(静岡県立大学名誉教授)を以下の理由により推薦させていただきます。

嵯峨先生は、1952年秋田県男鹿市で生まれ、秋田県立秋田高等学校に入学。卒業後上京し、應義塾大学法学部政治学科に入学しました。その後、同大学院法学研究科政治学専攻に進み、1978年、法学修士の学位を取得しました。1979年から1980年にかけて香港中文大学に留学。翌年、慶應義塾大学大学院の博士課程を単位修得退学しました。なお、1994年、慶應義塾大学より博士(法学)の学位を取得されました。

1982年、八戸大学商学部講師、19

89年度から静岡県立大学国際関係学部の助教授に就任し、1998年に教授となり、2017年3月31日、定年により静岡県立大学の教授を退き、名誉教授の称号を授与されました。

嵯峨先生と霞山会との関わりは1995年に刊行された『近代中国人名辞典』の編集委員の一員として編集に関わったことが最初でした。

その後、この『近代中国人名辞典』の修訂版の編集にも再度関わっていただき、編集作業に5年の歳月を費やし、2018年に霞山会発行、国書刊行会販売という形で『近代中国人名辞典・修訂版』を刊行しました、この辞典は全国の大学図書館などにも蔵書され、日中関係の専門家・研究者などから非常に高い評価を得ています。

近衛篤磨公に関しては、近衛文麿が近衛家の収蔵品を集めた京都の公益財団法人陽明文庫を数回にわたり訪問し、陽明文庫で見ることのできない篤磨公の直筆の資料、また国会図書館や霞山会が保管している東亜同文会、東亜同文書院に関する資料を読み込み、篤磨公の人間性や政治家、教育家としての真実の姿を描き出しました。

霞山会が2016年から「近代日本とアジア」というテーマで開催してきた連続シンポジウムでその成果を報告されるとともに、霞山会の広報的意味合いを持つDVD「霞山会のあゆみ」「近衛篤磨」等で監修の任にあた

りました。

近衛篤磨のアジア主義に共鳴していた頭山満のことを書いた単著『頭山満―アジア主義者の実像』もあります。

最近では、霞山アカデミー・オンライン講座で近衛篤磨公に関する3回の講座を担当され、その講座内容を基に新たに文章を加筆した著書が霞山会アカデミー新書の第3弾『東亜同文会初代会長 近衛篤磨評伝―その40年の生涯』というタイトルで2022年12月末に刊行予定となっています。

このように、東亜同文書院の母体である東亜同文会の初代会長である近衛篤磨公の再評価に向けた地道な研究活動の功績をたたえ、今回の受賞者候補として推薦した次第であります。



〔受賞挨拶〕

嵯峨 隆 氏

第29回の記念賞をいただき、身に余る光栄だと感じております。ありがとうございます。何か一言挨拶をせよとのことですので、近衛篤磨とアジア主義についての話を少し述べたいと思います。

私は今でこそ東亜同文会や近衛についての文章を書いておりますが、先程会長や理事長がお話されましたように、元々の研究テーマは近代中国の政治思想でした。今風に言いますと、学問領域を越境して、日本研究にまで足を踏み入れたというわけです。越境のきっかけは、アジア主義という思想が日本と中国とではどのような違いがあるのか、ということに関心を持ったことでした。近衛については一般的な知識は持っていました、すぐに研究に取り掛かるには些か躊躇を覚えました。そこで、まず中国側の思想から見てみようと思いました。

中国でアジア主義を唱えた人としては孫文が知られています。孫文は亡くなる前年に神戸に来て、「大アジア主義」という有名な講演を行っています。そのため、彼は広くアジア主義者と見なされているのですが、その主張がどのような構造で成り立っているかを分析することから始めたのです。その思想の核心は、アジアの諸民族は連帯して西洋列

強による抑圧に対抗しなければならぬというものです。しかし当初から、アジア人の連帯のあり方については様々な意見がありました。そこには、中国の王朝体制の全面的な否定を唱えるもの、体制の漸進的な改良を前提とするものなどがあつたのです。これに対応する日本のアジア主義者も多様でした。中には、革命派を支持する人もありました。

それでは、近衛はどうであつたかということになります。ご存知の方も多いと思いますが、近衛は貴族院議長を務めた政治家です。

このような立場の人物が、中国の反体制運動を進める人と提携することなどあり得ません。むしろ、彼は一貫して清朝の有力者と提携して、ヨーロッパに対抗していこうと考えていました。ですから、中国の改良主義者たちが日本に亡命してきて、東亜同文会に支援を求めたことがあります。近衛はこれを強く拒絶しています。孫文などはさらに危険な人物だと考えていました。東亜同文会の中には、中国に渡って彼らの革命運動に加わる人もいましたが、近衛はそうしたことを非常に嫌っていました。

ちなみに、現在公刊されている『近衛篤磨日記』の中に、孫文の名が何回くらい登場するのか気になって、索引で調べてみたことがあります。日記は8年にわたるものですが、その中に出てくるのはたった2カ所だけでした。それも、ごく軽く触れられているに過ぎないのです。このことは意外な感じがしま

した。しかし、近衛が孫文に全然関心がなかったとは思えません。これはあくまでも推測ですが、利害関係がなかったこと、そして政治的次元が違い過ぎたからではないかと思っています。近衛は非常に現実主義的な考えの持ち主ですので、そのような関係性の薄い人物には筆が及ぶことはなかったのかもしれませんが。

さて、近衛の代表的な業績としましては、東亜同文書院の設立があつたことは皆さんもご承知のことだと思えます。東亜同文会は早くから中国への留学生の派遣などをしていましたが、次第に会員の中に中国に本格的な学校を作ろうという意見が出てきます。そうした意見を受けて、近衛は海外視察旅行の最後に中国を訪れ、南京で有力者と会談をして学校設立への協力の約束を取り付けます。これが発端になったわけです。その後、帰国して根津一と相談して学校設立に取り掛かります。根津は東亜同文書院の初代院長になる人物です。南京にいた同文会の職員には、すぐさま学校の敷地の確保や宿舍の手配などの指示がなされます。このような、近衛の積極的な行動が同文書院の短期間での開設に繋がつたのだらうと思えます。この後、東亜同文会と同文書院が日中両国の民間交流に果たした役割の大きさについては、ここで改めて言うまでもないことでしょう。

最後に、私と近衛研究との出会いについて述べておきたいと思えます。私がアジア主義

者の中でも、特に近衛篤磨を重点的に研究するようになるには、1つのきっかけがありました。それは、先ほど阿部理事長がお話ししましたように、霞山会が2016年から5回にわたってシンポジウムを開催したことです。「近代日本とアジア」をテーマとするものでしたが、私はこれに報告者として参加すること、近衛と東亜同文会に関する知見をいっそう深めることができました。この点で、霞山会には深く感謝しております。この度上梓した『東亜同文会初代会長 近衛篤磨評伝』は、政治家や教育者といった公人としての側面に焦点を当てたものです。私人としてのエピソードなどは、霞山会のホームページで紹介してみたいと考えております。まとまりのない話になりましたが、これをもちまして私の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。



〔功労賞推薦の辞〕

藤田 佳久 氏（愛知大学名誉教授）

ただ今ご紹介いただきました藤田と申します。今回は越知さんが来られないので、愛大の校舎から、オンラインで参加しているということでございます。第29回、令和4年度の東亜同文書院記念基金会の功労者。受賞者として越知専氏を以下の理由より表彰させていただきます。

越知専氏は昭和5年、1930年。愛知県豊橋市に生まれ、豊橋市に昭和21年旧制大学として、創設されて間もない愛知大学の法経済部の経済学科で昭和28年、1953年に卒業されました。学生時代には写真部で活躍され、世界的に有名になった東松照明氏と一緒に、大変な刺激を受け、越知氏に撮影された写真は今日では大変多くの価値を持っており、愛知大学の歴史的な写真として貴重な存在になっております。勉学にも集中され、当時としては珍しい近代経済学のほうも勉強されました。全国の経済学学生発表代表者にも選ばれ発表しておられます。勉強熱心な学生時代を送られました。その証拠は、受講したノートが約10冊ほどセンターの展示室に置いてあります。見事なノートでありまして、最初は誰でも見られるようにしたために、大分傷んでしまいました。現在レプリカに差し替えて展示をしています。



卒業後はオチ理美容美容室を豊橋駅前で経営され、全国でも先駆的な理容会の指導者として活躍されました。そこで、お客となったのが本間先生でありまして、本間先生との交流はそこでできたわけであります。お客さんとして色々お話する過程の中で、本間先生の上海での東亜同文書院大学時代最後の閉校、愛知大学の設立から経営、薬師岳遭難の時には、命を最も重視して見事な対応によって愛知大学の名前を上げたというような先生の奮闘ぶりを知るにつれて、先生の品格に惹かれ、強く尊敬の念を抱くようになられました。本間先生には、その後も幅広く薫陶を受け、本間先生に師事し研究を重ね、多くの本間本と言いますか、何冊もの顕彰本を出版されました。若干の事例を挙げますと、『本間イズムと愛知大学、その実例編』。その真髓を学ばれました。2009年ですね。それから愛大事件について、最後まで学生を弁護したことを記録した『本間イズムと愛知大学―その

真髓を国会証言から学ぶ―』。これが2009年と2012年。『愛知大学―本間イズム実践編―』。昭和、平成から令和に向けて。これが2018年。さらに本間先生の胸像3体を豊橋校舎、名古屋校舎、ご出身地の山形県川西町に寄贈されました。また本間喜一顕彰会を設立されまして、本間先生の思い出をかたちにしてまいりました。その思いが本間先生の出身地、山形県川西町へも及び、川西町では6大有名な博物館に並んでおります。その中には有名な作家、井上ひさしも展示されており、先生もその中で展示されることになりました。上海の東亜同文書院が借用していた上海交通大学にも訪問しております。

もう1点は、本間先生の思いをベースにしながら愛知大学豊橋校舎に開設された東亜同文書院大学記念センター開設に向けて、多大な貢献をされました。愛知大学同窓会への貢献もしておられた越知氏は、同記念センターが設置され文部省からオープンリサーチセンタープロジェクトに選定されますと、その委員会の一員として参加され、開学以来の歴史的な貴重な写真を提供されました。また、展示品も提供。それらの撮影、展示方針の提案などが行われまして、当初1,000万円の寄付金を提供していただきました。当記念センターの充実・発展にそれは繋がりました。当センターは毎年、展示講演会を全国でやっているんですけど、アメリカのアジア

学会からも招待され、アメリカのシカゴで展示会をやったことがあります。その時にお金が少し足らなかったもので、その辺もサポートするためご寄付いただきました。さらにご自分で撮影して編集された『愛知大学創成期の群像』の編集、刊行があります。これは非常に貴重な写真が収められています。ここには越知氏のノウハウがたくさん含まれております。

それにより同センターは、当時の国公私立大学で作る大学史資料協議会というのがございまして、これは関東と関西を両輪にして結成されているのですが、その大学史資料協議会の全国大会と東日本大会を本学でやるという繋がりにもなりました。愛知大学の東亜同文書院大学記念センターがいわば全国の大学史の方々に知られて、現在は色んな各地の大学の大学史との交流がすすめられております。

本日、越知氏はご高齢のため、当会場にはちよつとご出席いただけなくて、愛知大学の一部屋においてオンラインで参加され授賞されるということになりました。本間先生の出身地である山形県川西町を中心に愛知大学の、特に東北地方の人たちからも学生諸君に来ていただいたというわけで、5,000万円の寄付をいただきました。この多額な寄付と奨学金を受けまして、この春初めて第1号の卒業生が出ます。今日は愛知大学のほうで、越知氏が表彰されますその場にその卒

業生が駆けつけてこられるということなので、画像のほうでお伝えできると思っています。そして、昨年、再び記念センターのほうに寄付をいただきました。最初のセンターがオープン以来、色んな寄付をしていただいたのですけど。合計すると関係した愛知大学へ1億円近い額になります。多額な寄付なので、ちよつと調べてみましたところ、寄付で知られているのは慶應大学ですね、慶應大学ではずつと寄付者の名前を公表しています。それによると寄付者の一番トップの人は2億円なんです。1億円以上の人は5人か6人おられます。越知さんは慶應大学の中に入ると5番目か6番目の寄付者になります。そういうようなことから愛知大学にこれだけの多額の寄付をいただいたということも特筆させていただきます。以上、越知さんの受賞推薦の言葉とします。どうも失礼しました。

〔受賞挨拶〕

越知 専 氏

ただ今ご紹介いただきました越知専でございます。とにかく大変色々な方からお褒めの言葉をいただきました身之余る光栄だと思っております。今日はこういう席にお招きをいただきました。ご意見を述べさせていただきます。今日は大変私にとつて幸せなことであります。今日はこういう会場にお招きを

いただきました。お礼の言葉を述べながら今までの思い出みたいなものをお話させていただきます。ただければ光栄だと思います。それでは、3つの思い出ということでお話をさせていただきます。

1つは本間先生の背広の件です。本間先生はいつも紺の背広を着ておられました。ネクタイは毛糸で編んだネクタイ。これをいつもこの服で、冠婚葬祭すべてに重宝するよ、と。これは丸栄百貨店に勤めておった卒業生が本間先生に贈った紺の背広上下で、これを一生大事にしておりました。本間先生は学生から好かれ、尊敬され、そして、また先生自身も学生を愛していたと私は思うんです。

もう1つは本間先生の胸像の件ですが、豊橋に本間先生の胸像を作ろうと。その時に本間先生は、僕は外に置かれては困る。酸性雨に侵された銅像ほどみじめなものはないとのことでしたから、だから家の中に置ける胸像として、愛知大学の中の記念館のとなりの同窓会館の中の正面入った入り口のところに



配置しました。胸像を作る時も日展出身者の方に作っていただきまして、大変評判が良く、同窓会に集まった人たちや皆さんが本間先生の胸像を見ながら、愛知大学創立者の本間喜一を思い浮かべながら入っていったり見ていたりしておるように思えます。胸像も1つだけでは寂しいということで、もう1つを作りまして名古屋校舎にあります。さらにもう1つは本間さんの生誕地である川西町に寄付いたしました。だから、本間さんには3つの胸像がそろっております。

本間さんのもう1つ話をする、正義の味方という根性で、正義の味方です。子ども心にもそういうお話は色々聞いたりしたことがあります、「ときくれば枯れ木とみえしやまかげのさくらの花のさきにおいつつ」という句を本間先生が私に作ってくださいました。これは何かって言うと、大崎の干潟裁判というのがありました。干潟はどこまで土地権利があるのか。満ち潮、引き潮によって干潟が出たり沈んだり、多く出たりすることによる問題で、裁判で争ったことがあります。大崎の島民の人たちは、根性のある人たちでした。その時に本間さんがうたった俳句が、先の「ときくれば枯れ木とみえしやまかげのさくらの花のさきにおいつつ」でした。どういふことかと言うと、愛知県があの大崎の海岸辺りに企業を誘致しようとしたのです。今はトピー工業とか色々企業進出がある。そのためにその干潟を有効活用しようと本間

先生は、正義の味方と言うよりも、そういう気持ちで干潟、あるいは漁民の人たちの味方を買って出たのです。この干潟を上手く利用すべく、自分の経験をふまえて、この大崎の干潟裁判をやったのです。今はトピー工業がある、ああいう企業が他にもいっぱいある。「ときくれば枯れ木とみえしやまかげのさくらの花のさきにおいつつ」と、今のそのところはいっぱい花が咲くよと。これが、本間先生の心、思いやり。それは実学で経験をしているからよく分かることです。だから、もともとと愛大の本間喜一を知ってもらい努力をしなきゃいかん。例えば胸像を作るについても、本間先生のだけじゃいかん。初代、次代、三代作れ。愛知大学の精神は本間さんの心でだけじゃいかんと、こう思っております。

『日々是新』（ひびこれあらたなり）という言葉。これは1964年。もう30〜40年も前に私に書いてくれたものです。もう1つ書いてくれたのが、「学長は隠しどころの毛のごとし、あつて普通、なくて間に合う」と。本間先生が昭和、平成、令和にかけてどういふようなご意見を持っておられたか。3つの胸像もあるし、本間先生の薬師岳遭難事件時に対する考え方は「人命は地球より重し」。これは遭難した時の学生たちに対する言葉。この言葉が朝日新聞、中日新聞など、どの新聞にもでかでかと書かれて多くの人々の心をゆさぶり、愛知大学への支援につながった。

こういう心の持ち主である。こういう本間さんの言葉についてもともとと語録を作って欲しい。愛知大学の良さはそこにある。本間先生にあると。そういうところをこれから愛知大学はどんどん進めていってもらいたいと思います。本間先生が直筆で書いてくれた先ほどの2つの言葉（「日々是新」と「学長は隠しどころの毛のごとし」）の現物と、新聞記事のコピーを持って来ましたので、こちらを参考にしていただけばよく分かると思います。こういう堅い字を書いたり、行書のような字を書いたり、柔らかいところも堅いところも含めた本間先生の度量というものを身にかけていただけたと思います。今日の会合の目的は愛知大学の創立者、本間喜一の精神を少しでも学びとっていただければありがたいと思います。ありがとうございます。



【豊橋校舎より】
ZOOM参加された3名様

東亜同文書院記念基金会 記念賞・功労賞・奨励賞のこれまでの受賞者

第1回 平5(1993)年度 記念賞	平成5(1993)年11月5日 上海交通大学 中日科技研究会（翁史烈(当時の上海交通大学学長)が会長） 科学技術及び教育に関する日本の資料を中国の学生向けに刊行するなど日本事情を中国に紹介する活動を行っている。（東亜同文書院大学45期専門部卒業生吉川信夫氏は私財を投じて同会を支援した。）
記念賞	谷 光隆氏（元愛知大学教授） 大旅行調査を研究 大運河調査報告書を刊行。
記念賞	菅野俊作氏（東北大学名誉教授 41期） 中国人留学生を支援。
第2回 平6(1994)年度 記念賞	平成6(1994)年9月16日 林文月氏（台湾大学名誉教授） 源氏物語他を中国語に翻訳刊行。
記念賞	栗田尚弥氏（埼玉大学講師） 「東亜同文書院 日中を架けんとした男たち」を刊行。
記念賞	白川正雄氏（42期） 戦後スマトラに永住し戦火で消失したモスクを再建。
記念賞	村上和夫氏（長野県中国文化研究会副会長） 中国古代瓦当文様の研究を刊行。
第3回 平7(1995)年度 記念賞	平成7(1995)年9月13日 藤田佳久氏（愛知大学教授） 大旅行調査報告書を解説し「中国を歩く」等を 刊行。
第4回 平8(1996)年度 記念賞	平成8(1996)年9月6日 ダグラス・レイノルズ氏（ジョージア州立大学歴史学部副教授(注:肩書きは受賞当時)） 東亜同文書院の大旅行調査を研究し、それが戦後米国で発展した地域研究（Area studies）よりも古い歴史を持つ優れたものであることを検証し「地域研究の知られざる起源日本の東亜同文書院」を刊行して広く世に紹介した。
記念賞	陳 弘氏（44期） 日中要人の会談の通訳 人民日報東京特派員として友好促進に貢献。
第5回 平9(1997)年度 記念賞	平成9(1997)年10月7日 遠山正瑛氏（鳥取大学名誉教授） 日本砂漠緑化実践協会の設立ボランティアを指導し内蒙古砂漠に植林。
第6回 平10(1998)年度 研究奨励賞	平成10(1998)年9月24日 薄井由氏（上海復旦大学修士課程） 「東亜同文書院大旅行初歩研究」を中国で出版予定書院の業績を中国で紹介。
研究奨励賞	水谷尚子氏（日本女子大博士課程） 書院中華学生部を研究し論文「東亜同文書院に学んだ中国人」で同学生部の業績を紹介。

第 7 回 平 11(1999)年度 記念賞	平成 11(1999)年 9 月 28 日 翟新(テキシン)氏(上海復旦大学大学院修士課程修了 慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程) 東亜同文化の日中近代史における足跡を研究、再評価する論文を発表。
研究奨励賞	劉 永誌氏(愛知大学大学院文学研究科博士後期修士課程 博士学位取得) タクラマカン砂漠の困難な現地調査を行い、その日本語論文は辺境の地誌学的研究として高く評価された。
第 8 回 平 12(2000)年度	平成 12(2000)年 9 月 29 日 名古屋テレビ「青春の中国」取材班 東亜同文書院の「日中の架け橋を」という理想に生きた書院生の青春とそれを現代に受け継ぐ愛大学生の姿を生き生きとテレビで紹介。
第 9 回 平 14(2002)年度	平成 14(2002)9 月 26 日 西所正道氏 「上海東亜同文書院風雲録」を刊行。卒業生たちの足跡を追うことにより、東亜同文書院の建学の精神が世紀を越えて現代に生き続ける姿を広く世に紹介。
第 10 回 平 15(2003)年度 記念賞	平成 15(2003)年 9 月 24 日 工藤俊一氏(元北京大学文教専門家) 「北京大学 超エリートたちの日本論―衝撃の「歴史認識」」を刊行。各方面から高い評価を得た。
第 11 回 平 16(2004)年度 記念賞	平成 16(2004)年 9 月 29 日 今泉潤太郎氏(愛知大学名誉教授) 「愛知大学『中日大辞典』」の編纂に長年献身的に力を注ぎ、同辞典の内外における高い評価の形成に多大の寄与をした。
第 12 回 平 17(2005)年度 記念賞	平成 17(2005)年 10 月 7 日 大森和夫氏(国際交流研究所長)・弘子さん夫妻 日本語教材を中国の大学に寄贈するなど日中文化交流活動を続けた。
第 13 回 平 18(2006)年度 記念賞	平成 18(2006)年 12 月 8 日 テレビ宮崎 強制連行で過酷な労働を強いられた中国人労働者を親身にかばった勇気ある日本の青年の精神と行動力のルーツを辿るヒューマンドキュメンタリーを制作放送した。
奨励賞	成瀬さよ子氏(愛知大学豊橋図書館司書) 内外のぼうだいな資料を収集整理し貴重な「東亜同文書院関係目録」を作成刊行した。
第 14 回 平 19(2007)年度 記念賞	平成 20(2008)年 1 月 29 日 浅川義基氏 北京国際元老テニス大会に連続 20 年間出場する中で、会の推進的役割を果たし、日中友好と国際親善のために尽力した。

第 15 回 平 20 (2008) 年度 記念賞	平成 21 (2009) 年 1 月 30 日 工藤美代子氏 著書「われ巢鴨に出頭せず」において文麿公の行動を論理的に検証したが、これは東京裁判史観を根底から覆す程の功績があった。
第 16 回 平 21 (2009) 年度 記念賞	平成 22 (2010) 年 1 月 27 日 葉敦平氏（上海交通大学校史研究室教授） 東亜同文書院の上海交通大学キャンパスの占用、両校の近隣同士の友好関係などを、史実に基づき組織的に研究し、「資料選集」を編集。
第 17 回 平 22 (2010) 年度 記念賞	平成 23 年 (2011) 年 1 月 26 日 小坂文乃氏 著書「革命をプロデュースした日本人」で、孫文に対し多大の援助を与えながら「一切口外シテハナラズ」として革命運動の隠れた援助者であった梅屋庄吉の生涯を明らかにした。
記念賞	愛知大学中日大辞典編纂所 鈴木擇郎先生らにより計画された東亜同文書院中国語教育のシンボルともいふべき辞典編纂に長年取り組み中日大辞典第三版を刊行。
第 18 回 平 23 (2011) 年度 功労賞	平成 24 年 (2012) 年 1 月 24 日 藤田佳久氏（愛知大学名誉教授、愛知大学東亜同文書院大学記念センター初代センター長） オープン・リサーチ・センター事業実施。東京・中日・北陸中日新聞連載「東亜同文書院の群像」執筆。
奨励賞	武井義和氏（愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員） 「孫文を支えた日本人」出版。「中国における東亜同文書院の『資料選集』」翻訳。
第 19 回 平 24 (2012) 年度 奨励賞	平成 25 年 (2013) 年 1 月 25 日 保坂治朗氏 それまで東京同文書院の実態が幻的存在であったのを実像化した点で先駆的であり、当記念センターの書院研究で当初からなかなかアプローチ出来なかった空白部分を埋め、時代背景にも言及されつつ東亜同文書院のある種原点を解明された。
奨励賞	有森茂生氏 東亜同文書院関係の図書、資料文書、写真、レコードなどを 2008 年以來ほぼ毎年のように寄贈され、愛知大学東亜同文書院大学記念センターの展示や研究に貢献された。
第 20 回 平 25 (2013) 年度 記念賞	平成 26 年 (2014) 年 1 月 28 日 岡部達味氏（東京都立大学名誉教授、霞山会元理事） 中国政治・中国外交を専門とした学術研究に加え、メディアを通じて我が国論壇としてリードする役割を果たされた。1997～2001 年には日中友好 21 世紀委員会日本側座長を務められ、日中間の相互理解促進に大きく寄与された。

第 20 回 平 25(2013)年度 功労賞	平井誠二氏（公益財団法人大倉精神文化研究所研究部長） 東亜同文書院卒 3 期生大倉（旧姓江原）邦彦氏が戦前設立した大倉精神文化研究所の研究員として、同研究所の研究活動を企画運営されている。東亜同文書院関係にも強い関心を持ち、多くの史資料収集を行なうとともに、機関誌『大倉山論集』に多くの研究者を動員して、その成果を集積されている。
第 21 回 平 26(2014)年度 記念賞	平成 27 年(2015)年 1 月 27 日 北川文章氏（霞山会顧問、霞山会元理事長、山一証券元副社長） 日中間の文化交流事業、留学生交流事業、日中間の相互理解の推進に尽力されたことにより、中国上海交通大学及び浙江大学より顧問教授に任命されるとともに、揚州大学より名誉教授の称号を授与された。霞山会理事長就任時には愛知大学理事も兼任され、史実に基づいた「上海交通大学と財団法人霞山会の歴史関係に関する共同研究」に尽力されるなど、国際研究交流事業推進に多大な貢献をなされた。
功労賞	仁木賢司氏（ミシガン大学上級ライブラリアン） 東亜同文書院関係の文献資料を精力的に収集し、ミシガン大学等の研究者へその提供および指導をされ、アメリカにおける東亜同文書院研究のベースをつくられた。2009 年には「ミシガン大学の東亜同文書院およびアジア系文献史資料のデジタル化」、2014 年には「書院との出会いと史資料」と題して愛知大学で講演され、東亜同文書院大学記念センター発展への期待を力説された。
第 22 回 平 27(2015)年度 記念賞	平成 28 年(2016)年 1 月 22 日 小崎昌業氏（東亜同文書院大学第 42 期、愛知大学第 1 期、在モンゴル特命全権元大使、在ルーマニア特命全権元大使） 東亜同文書院大学の第 42 期生並びに愛知大学（旧制）の第 1 期生として、歴史的に関わりが深いこれら 2 つの大学の発展のために、一般財団法人霞山会を理事、また顧問として、同時に、学校法人愛知大学の監事も務められるなど、生涯を懸けてご尽力されてこられた。 また、外交官としてのご活躍、東亜同文会の昭和期の諸活動の取りまとめ、愛知大学に引き継がれた現地主義教育へのご指導など、実質を伴ったご功績を残してこられた。
第 23 回 平 28(2016)年度 功労賞	平成 29 年(2017)年 2 月 1 日 村上武氏（回光会・東光書院院長） 東亜同文書院 18 期生で、中華学生部の教員を務められた父、村上徳太郎氏の御子息。父は、東亜同文書院の生みの親である荒尾精、近衛篤麿、根津一の三先覚（聖人）を祀った靖亜神社のご神体を帰国後ご自宅（埼玉県）に東光書院を興して祭られた。武氏は、父を継承しご神体を祀られてきた。 あわせて、荒尾精が志した中国、東アジアとの共同、および実践の精神を評価し、著書や伝記を復刻したほかそれをふまえ、評論紙「回光」を月刊にて発刊し、啓蒙活動を進め、2015 年には、『日清戦勝異論』を刊行し、荒尾精を顕彰する諸活動に尽力なされた。

第 24 回 平 29(2017)年度 記念賞	平成 30 年 (2018) 年 3 月 28 日 山田正氏 (霞山会元理事長、愛知大学元理事) 一般財団法人霞山会の理事 (2006～2015 年)、筆頭常任理事 (2007 年)、理事長 (2008～2014 年) をつとめられ、文化・教育、学術・研究交流分野の発展に尽力され数々の業績を残された。また、2008 年 4 月より愛知大学理事に就任され、当会と愛知大学の繋がりをより緊密にされた。 霞山会の広報誌『Think Asia』を創刊し、アジア諸国・地域の社会、歴史、文化に関する情報の提供に尽力され、学術・研究交流では、上海交通大学および上海市日本研究交流協会、北京の中国国際交流協会、中国教育国際交流協会等各機関との研究者の相互交換、共同研究、シンポジウムなどをおこない学術研究交流の活性化をはかられた。
第 25 回 平 30(2018)年度 功労賞	平成 31 年(2019)年 3 月 6 日 中島寛司氏 (愛知大学同窓会元神奈川支部長) 愛知大学同窓会のリーダーとして滬友会、霞山会、愛知大学が主催する多岐にわたる行事にかかわり、東亜同文書院卒業生と愛知大学関係者とのつなぎ役を担われるなど、人望と行動力は第一人者である。
第 26 回 令元(2019)年度 記念賞	令和 3 年(2021)年 3 月 10 日 星 博人氏 (東亜学院元院長) 総合商社丸紅を退職後、霞山会常任顧問に就任。翌年から東亜学院長を兼務し 18 年間中国との文化・学術・教育交流の発展に尽力された。また「霞山会と上海交通大学の交流史、現状と今後の発展趨勢に関する学術研究」の参画者として東亜同文書院が上海交通大学を借用した事実関係を解明するなど大きな成果を上げられた。
第 27 回 令 2(2020)年度 記念賞	令和 3 年(2021)年 3 月 10 日 大城立裕氏 (予科 44 期) 動乱の戦時下、学徒出陣を体験。沖縄帰郷後は仕事の傍ら、それまでの経験を踏まえた数々の小説を発表。「芥川賞」「平林たいこ文学賞」など多数受賞。国からは、1990 年 紫綬褒章、1966 年 勲四等旭日小綬章を受賞された。沖縄の人々からも「知の巨人」として絶大な支持を集め、沖縄琉球文化の発展などに偉大な功績を残された。
第 28 回 令 3(2021)年度 功労賞	令和 4 年(2022)年 3 月 14 日 殿岡晟子氏 (本間喜一名誉学長のご長女) 東亜同文書院大学の学長また愛知大学の創立者でありかつ学長も務められた本間喜一先生の長女として書院卒業生と愛知大学および同卒業生との交流を積極的に進められ、本間喜一先生という大きな存在を関係者の心の中に映し続けてこられた。また、愛知大学東亜同文書院大学記念センター設置の際には多くの貴重資料を寄贈する等、センターの運営・活動に多大な貢献をなされた。
第 29 回 令 4(2022)年度 記念賞	令和 5 年(2023)年 3 月 7 日 嵯峨隆氏 (静岡県立大学名誉教授) 長年にわたり中国政治思想史の研究で多くの成果をあげてこられた。近年において日本におけるアジア主義研究にも関心を広げ、その文脈で東亜同文会初代会長をつとめた近衛篤磨公の思想と行動の再評価に向けて研究を進め、その成果を上梓された。

第29回 令4(2022)年度
功労賞

越知専氏（本間喜一顕彰会名誉会長、愛知大学元客員研究員）

東亜同文書院大学記念センターの運営発展ならびに本間喜一学長の顕彰に大きく貢献。同センターの展示施設開設とともに運営委員として参画され、愛知大学入学以来写真部員として撮りためた多くの記録写真や講義ノートを提供され、展示方式などの充実化に努めた。本間先生への尊敬の念を熱く抱き、本間イズムに強く共感し、本間学長展示室の充実化、何冊もの顕彰本の刊行、豊橋名古屋両校舎と山形県川西町への本間先生胸像の寄贈、東北地方からの愛知大学入学生への奨学金給付の実現、これらに伴う多額な寄付金の提供など、東亜同文書院大学記念センターへの支援に惜しみなく力を注いでくださった。

第29回 東亜同文書院記念基金会 授賞式

令和5年3月7日



授賞式参加者 敬称略

表紙写真参加者（写真順）

森 健一 伊藤綾子 八木好郎

柴田 孝 平井誠二 千葉憲一

朝 浩之 伊藤登美夫 六鹿茂夫

斉本正嘉 高橋幸紀 阿部純一

村尾竹一 畑野 勇 嗟峨 隆

水野紘治 大滝則忠 川井伸一

高井和伸 小山三郎 藤田佳久

永島茂郎 阿部 光 加納 寛

中川善弘 中島寛司 近藤智彦

中山 弘 工藤美代子

藤田哲男 西川直恵

栗田尚弥

他（順不同）

菱田雅晴 梅村博文

倉持由美子 小川晃史

斎藤真苗

ZOOM参加者（写真順）

加藤満憲

越知 専

鈴木拓優

他（順不同）

中野貴文

長本沙世子



東亜同文書院記念基金特別奨励賞 東亜同文書院記念基金栄誉賞 授与

東亜同文書院記念基金では、書院への理解を深め、伝統を引き継いでいくことを期待して本学学生へ2種類の表彰をしております。1999年度より「東亜同文書院記念基金栄誉賞」を設け、学位記授与式において、人物・学業成績が優れた者を表彰しています。

また、2013年度より「東亜同文書院記念基金特別奨励賞」を設け、入学式において入学試験の成績が最も優秀な入学者に対して、同賞を贈っております。

東亜同文書院記念基金 特別奨励賞

【2022年度受賞者】

経営学部 うえだ 上田 ななか 菜々花
文学部 やまもと 山本 しおん 詩桜

東亜同文書院記念基金 栄誉賞

【2022年度受賞者】

経済学部 ほりの 堀野 ともき 智暉
地域政策学部 はだ 羽田 ことな 琴菜



【基金役員名簿】

(2023年2月時点)

会長

川井 伸一

(愛知大学理事長・学長)

副会長

阿部 純一

(霞山会理事長)

理事

藤田 佳久

(愛知大学名誉教授)

六鹿 茂夫

(霞山会常任理事)

加納 寛

(愛知大学東亜同文書院大学
記念センター長)

近藤 智彦

(愛知大学事務局長)

監事

岡村 幹吉

(岡村会計事務所)

本間先生欽慕の会

令和4年5月8日(日) 東京小平霊園



写真お名前(敬称略)

村尾竹一 南氏(息女) 中島寛司

中川善弘 中山弘 藤田佳久

夏目益良

杉野彰一 殿岡晟子 南 昌彦

本間正久 小川千尋

鳥越 剛 伊藤登美夫 中尾 浩

有森茂生 高井和伸 戸田七支

中野貴文 淀野敏男

谷口 優

小平霊園の本間家墓前に於いて、令和4年5月8日(日)に、本間喜一先生の欽慕の会がありました。村尾さんの司会のもと、一同礼拝、中尾浩副学長 藤田名誉教授のご挨拶のあと、般若心経 長江の水 月影砕くる など高唱献じました。コロナ禍のため、直会はなく解散しました。欽慕の会には、いつも本間先生のお人柄を想い乍ら、戦後の引き上げの御苦労、愛知大学創立など、多くの功績が思い出されます。同窓生以外の参会者は、中尾浩副学長、藤田名誉教授、中野校友課長でした。親族のお方は、長女の殿岡晟子さん、本間先生の孫・本間正人さんでした。(昭和33年卒 中島寛司 記)



荒尾東方斎先生墓参

令和4年10月30日(日) 京都熊野若王子神社



ここ熊野若王子神社 春は桜、秋は紅葉の名所で南禅寺禅林院の守護神社として平安時代に建立された由緒ある神社です。今年の東方斎荒尾精先生京都追悼式で6年間連続開催となりました、確かな愛知大学の源流がこの地に存在していることを確信しております。今年は新型コロナウイルス感染が第七波として全国的に感染急拡大のなかで、感染が危ぶまれ乍らも極力参加者を限って案内させて頂きましたが、想定外の総勢33名の方々に参列いただくこととなりました、ここに厚く御礼申し上げます。そして追悼式後の直会は『南禅寺順正』での開催となり、和やかな雰囲気でお気楽とした直会となりました。来年の追悼式の時期にはコロナ感染症が治まっている事を念じております。(昭和52年卒 有森茂生 記)

【参加者】(順不同・敬称略)

荒尾 元、角 眞由美、高橋 剛、八木 好郎、藤田 佳久、竹本 陽三、銭谷 欣吾、滝下 隆夫、堀田 庄三、有森 茂生、加納 寛、加藤 満憲、甲村 洋子、樋口 裕嗣、森 健一、中島 寛司、久里 和英、中澤 勇、潮田 哲男、鈴木 孝博、榊原 林、中村 泉、井上 誠之、石塚 晴久、桶川 秀志、青木 加代美、梶田 美枝子、木川 敬三、佐藤 武史、廣見 哲信、会田 正彦、中野 貴文、伊藤 綾子 計 33 名



根津山洲先生墓参 梅花忌

令和5年2月18日(土)

京都伏見の月橋院

令和5年2月18日(土) 山洲根津一先生の法要墓参会『梅花忌』が、京都伏見 月橋院で行われました。この法要は、毎年2月18日根津先生の祥月命日に墓所 月橋院(伏見区桃山町秦長老)にて昔から滬友会(東亜同文書院同窓会)京阪神支部の方々が合い集い墓参していた行事を愛知大学同窓会が継承させて頂いております。当日、愛知大学同窓会及び愛知大学教職員 計23名が墓石及び墓地の清掃を行い、献花のうえ香華を手向けました。法要は、午前11時に本堂で根津一先生の遺影を掲げ御住職の読経に合わせ礼拝し、根津先生のご冥福をお祈りし皆さまのご健勝を祈念させて頂きました。(昭和52年卒 有森茂生 記)

【参加者】(順不同・敬称略)

八木 好郎、堀田 庄三、中島 寛司、鈴木 孝博、千賀 新三郎、中村 泉、射場 正治、加藤 正人、滝下 隆夫、佐藤 武史、松山 哲彦、銭谷 欣吾、岡崎 早苗、藤原 重治、竹本 陽三、小西 一英、日笠 羽司名、有森 茂生、川井 伸一、藤田 佳久、馬場 毅、加納 寛、中野 貴文 計 23 名

東亜同文書院大学記念センター活動レポート

①金沢展示会・講演会を開催

東亜同文書院大学記念センターが主催する金沢展示会・講演会『東亜同文書院』と『金沢』を、2022年9月23日（金・祝）～9月25日（日）の3日間、石川県政記念しいのき迎賓館にて開催しました。

9月24日（土）には講演会を開催し、脇水達生様より「東亜同文書院と郷土（石川県・金沢市）の人々」について、藤田佳久名誉教授より「中国の近代化と東亜同文書院」について、加納希美様より「愛知大学現代中国語学部創設期における熱量伝播の諸相」について講演が行われました。講演会では、東亜同文書院の前身校である日清貿易研究所との関わりや東亜同文書院上海設立に至る大きな足掛かりとなった石川県の人物たち、その後の東亜同文書院の県費という制度の始まりの中での、東亜同文書院と石川県・金沢市の繋がりについてのお話がありました。当日は台風15号の影響下にも関わらず、3日間で合計145名の方々にご来場いただきました。

【展示会感想】

- ・難しい国際情勢ですが、改めて東亜同文書院がメジャーな評価をされる世の中になればと思います。
- ・そうそうたる人々の書が特に印象的だった。
- ・写真が多く、わかりやすかった。

【講演会感想】

- ・日清貿易開拓にかかわった石川県の人々を確認できた。
- ・石川県との関係ある人々について初めて知ることができた。よかった。
- ・明快で解り良かった。同文書院の学生の調査が日中の交流に役立った。
- ・東亜同文書院が日本政府の支援なしでスタートしたとは思っていませんでした。そうした中で日清戦争や日英同盟のような外交史との関連性についてある程度理解できました。





金沢展示会・講演会



日本と中国を繋ぐ、東亜同文書院が設立したビジネススクール「東亜同文書院」

「東亜同文書院」と「金沢」

金沢展示会

2022年9月23日（祝・金）～25日（日）
10:00～17:00（※25日は13:00まで）
場所：石川県政記念しいのき迎賓館

金沢講演会

2022年9月24日（土） 13:30～16:30

- ◆ 13:30～ 東亜同文書院と郷土（石川県・金沢市）の人々
脇水達生（愛知大学法経学部法学科 昭和46年卒）
- ◆ 14:15～ 中国の近代化と東亜同文書院
藤田佳久（愛知大学名誉教授）
- ◆ 15:30～ 愛知大学現代中国語学部創設期における熱量伝播の諸相
加納希美（愛知大学現代中国語部1期生、金沢大学講師）



しいのき迎賓館
2階：イベントホール
ガーデンルーム
〒920-0962
石川県金沢市広坂2丁目1番1号
TEL:076-261-1111
FAX:076-261-1115

予約不要・入場無料
・入退場自由

主催 愛知大学東亜同文書院大学記念センター
お問い合わせ先 TEL:0532-47-4139 Email:toa@ml.aichi-u.ac.jp
後援 一般財団法人霧山会、愛知大学同窓会、公益財団法人愛知大学教育研究支援財団



②名誉博士 平松礼二画伯特別展覧会を開催

第4回 名誉博士 平松礼二画伯の特別展覧会を2022年11月12日（土）～11月19日（土）の8日間、大学記念館2階にて開催しました。

平松先生から愛知大学に寄託された300点以上の平松礼二コレクションの中から、画家を志した高校・大学時代の貴重なデッサン、長年暮らした東海地方ゆかりの作品、アジア・欧州など世界で制作したジャポニスムシリーズを紹介。また、今回はフランス芸術文化勲章シュヴァリエを受勲した記念展として「睡蓮」の数々を展覧する「睡蓮の間」が設けられました。

初日となる11月12日（土）は、平松先生の講演会「シュヴァリエ受勲記念『平松礼二講演会』」が開催され、2020年に完成した全長90mの屏風14点制作にまつわるお話をされました。

まだコロナ禍が明け切っていない中ではありますが、合計1,169名と多くの方にご来館いただきました。平松先生の既存ファンはもちろん、たまたまチラシを見て来館された方、今回の展示を見たご友人に勧められて来館された方、愛知大学の教員・生徒・OB・OGなど、皆様楽しんでいただけた8日間となりました。平松先生が愛知大学出身であることをご存じない方も多く、愛知大学の所蔵数に驚かれる方もいらつしました。今回は愛知大学と平松先生の広報に大きく寄与した展示会となりました。



フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲記念

愛知大学名誉博士

第4回 平松礼二展 ～アイチ、モネ、そして世界へ！



平松礼二氏

イベント

シュヴァリエ受勲記念《平松礼二講演会》 予約不要

平松礼二氏が来場されます。2020年に完成した全長90mの屏風14点制作にまつわるお話をさせていただきます。

テーマ：「睡蓮交響曲（スレイン・コウキョウガク）」～90Mの大屏風完成記録～DVD放映あり（15分）

日時：11月12日（土）13:00～14:30（受付 12:00～）

会場：愛知大学豊橋キャンパス 6号館（1階610教室）

定員：100名（先着順）

学芸員によるギャラリートーク 予約不要

展覧会場で古川果穂学芸員（小瀬満穂子）による作品解説を行います。

日時：11月18日（金）・19日（土）各日11:00～、14:00～

会場：愛知大学豊橋キャンパス 愛知大学記念館2階

愛知大学は平松礼二画伯の母校です。平松氏から寄託された300点以上の平松礼二コレクションから、画家を志した高校・大学時代の貴重なデッサン、長年暮らした東海地方ゆかりの作品、世界へ活躍の舞台を広げたジャポニスムシリーズをご紹介します。また、フランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受勲した記念展として、平松氏の「睡蓮」の数々を展覧する「睡蓮の間」を設けます。かつて、モネの「睡蓮」を見て衝撃を受けた作者は、絵画の実験と挑戦を経て、大きな世界へと道を切り拓きました。平松氏の抱いた彩り豊かな絵画もまた、確々しい希望の道となることでしょう。



平松礼二氏の睡蓮の間（部分）



愛知大学
AICHI UNIVERSITY
愛知大学豊橋キャンパス
愛知大学記念館
TEL 052-937-6762
HP https://www.aichi-u.ac.jp
展覧会開催中の日 9:00～17:00
豊橋校舎1階
TEL 0532-477-4111



●この情報は2022年度版を掲載いたします。
●最新版は、愛知大学豊橋キャンパス 愛知大学記念館2階 展示室に貼付されています。

第4回

愛知大学名誉博士

平松礼二展

アイチ、モネ、そして世界へ！

フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲記念

2022年
11月12日[土]・19日[土]
【観覧時間】10時～16時
——ただし、12日（土）のみ11時開館——
【休館日】期間中無休
主催：愛知大学
協賛：愛知大学同窓会 愛知大学教育研究支援財団
協力：公益財団法人古川和足会 古川美術館

平松礼二展 会場
愛知大学 豊橋キャンパス
愛知大学記念館2階 名誉博士記念室
（愛知大学記念館）は明治日本の近代遺産です

入場料
無料



国際シンポジウム

- 2016年 「東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う」
 2015年 「近代日中関係史の中のアジア主義-東亜同文書院と東亜同文会-」
 2014年 「東亜同文書院の中国研究-その現代的意味」
 2013年 「近代日中関係史の中の東亜同文書院」
 「孫文と東アジアの平和」
 2012年 「近代台湾の経済社会変遷-日本とのかかわりをめぐって-」
 2011年 「辛亥革命・孫文・東亜同文会」
 2010年 「戦前外地にあった愛大ルーツ5校の出身学生が語るアジアと愛大」
 2009年 「欧米研究者から見た東亜同文書院」
 2008年 「東亜同文会の東アジアにおける教育活動とその展開」
 2007年 「日中研究者による東亜同文書院研究」
 「世界と日本の大学史の流れの中での東亜同文書院と愛知大学」

展示会・講演会

- | | |
|-------------|-------------|
| 2022年 金 沢 | 2011年 富 山 |
| 2019年 高 松 | 2010年 名 古 屋 |
| 2018年 岡 崎 | 2010年 米 沢 |
| 2017年 浜 松 | 2010年 京 都 |
| 2016年 名 古 屋 | 2009年 神 戸 |
| 2015年 松 本 | 2009年 シ カ ゴ |
| 2014年 広 島 | 2008年 福 岡 |
| 2014年 岐 阜 | 2008年 弘 前 |
| 2013年 長 崎 | 2007年 東 京 |
| 2012年 沖 縄 | 2006年 横 浜 |

出版物

- ・同文書院記念報(vol.31まで刊行)
- ・ブックレット(第9巻まで刊行)
- ・愛知大学創成期の群像 など



愛知大学記念館

愛知大学東亜同文書院大学記念センター



《開館時間》月～金曜日:10時～16時 《閉館日》土・日・祝および大学の定める休日